



「Rosewood London」ホテル所有のリムジン「JaguarXJL Saloon」での送迎をリクエストすると、ゲストの到着と同時に爽やかなサマースーツのベルスタッフたちが軽快にトランク類を運び、専任パトラーが挨拶をしてゲストを部屋に案内する



華麗なエントランスホール。ローズウッド ロンドンは時代を超越した伝統的なホテルで、エドワード朝様式の象徴的な建物は、これまで大手保険会社「The Pearl Assurance Company」の本社オフィスとして使われていた。2013年、ローズウッド ホテルズ&リゾートの傘下に入り、「Rosewood London」として再オープンしている



ローズウッド ロンドンはシティとウェストエンドの間、ハイ・ホルボーン通り沿いに位置し、建物の中央上部にドーム状のクーポラを配置した独特の外観は威厳さえ感じる



ホテルゲストはエドワード朝の壮大な中庭に通じるアーチ道を通って正面エントランス車寄せに到着する



通称「ブロンズ・ギャラリー」と呼ばれる回廊。いかにもトニー・チー「Tony Chi」らしいデザイン手腕によって、シノワズリーな雰囲気を出している



館内は大理石を多用したベルエポック期の重厚な建築物の内装で、ルネサンス様式の7階まで続く総大理石の壮麗なステアケースは圧巻だ



筆者 **小原 康裕**
国際ホテルジャーナリスト

慶応義塾大学法学部法律学科卒。
1974年 Munich Re 入社。
2001年投資顧問会社原健設立、
代表取締役 CEO。
JHRCA、日本ホテルレストランコンサルタント
協会常務理事。
SKAL International Tokyo、
Professionnels du Tourisme 会員。
JARC、日本宿泊施設関連協会
アドバイザーボードメンバー。

www.jhrca.com/worldhotel/?cat42
www.hoterresonline.com
<https://www.facebook.com/yasuhiro.obara.16>

世界にはまだまだ日本人が訪れていないホテルがある。このコーナーではホテルエが知っておくべき「世界のリーディングホテル」を紹介する。これまで多くのホテル紹介本が出版されてきたが、そのほとんどが現地のホテルと事前に取材の連絡を取り合い、プロのカメラマンや通訳、そのほか大勢を連れ立っての大名取材であり、宿泊は省略といったことも多々であった。本連載では、著者自身が長年にわたる個人旅行中に自分の目で感じ取り、コメントを書き込み、自分のカメラで思いのままを撮ってきた写真を掲載する。

Rosewood London

ローズウッド ロンドンは時代を超越した伝統的なホテルである。エドワード朝様式の象徴的な建物は、これまで大手保険会社「The Pearl Assurance Company」の本社オフィスとして使われていた。その後、建物はホテルに改修され、2001年より「Renaissance Chancery Court London」という名称で営業していた。後にローズウッド ホテルズ&リゾートの傘下に入り、「Rosewood London」として再オープンしている。大理石を多用したベルエポック期の重厚な建築物の内装は、Park Hyatt や

Mandarin Oriental のデザインも手がけてきたトニー・チー「Tony Chi」の手腕によって、保険会社の面影を払拭させスマートな姿に生まれ変わっている。

ローズウッド ロンドンはシティとウェストエンドの間、ハイ・ホルボーン通り沿いに位置し、建物の中央上部にドーム状のクーポラを配置した独特の外観は威厳さえ感じる。ホテルゲストはエドワード朝の壮大な中庭に通じるアーチ道を通って正面エントランス車寄せに到着すると、ある種の高揚感が湧いてくる。ホテル所有のリムジン「JaguarXJL Saloon」での送迎なら尚更のことであろう。ゲストの到着と同時に爽やかなサマースーツのベルスタッ



左手にレセプション、右手にコンシェルジュデスクを配置したスタイリッシュなエントランスホール



ラウンジダイニング「Mirror Room」。館内中央部に位置し、大胆でゴージャスな雰囲気魅了される



店名が英国の有名風刺画家 Gerald Scarfe に由来するメインバー「Scarfe Bar」



メインバー「Scarfe Bar」の奥はライブラリーラウンジになり、クラブ感覚の雰囲気だ



ロンドンのパブをイメージしたダイニング「Holborn Dining Room」



スパ施設「SENSE A Rosewood Spa」にはセレブリティ御用達のヘアサロン「Matthew Curtis Hair Salon」が店を構え、高評価を得ている

スタッフが軽快にトランク類を運び、専任パトラーが挨拶をしてゲストを部屋に案内する。

ローズウッド ロンドンは44のスイートを含む全306室を擁し、2013年に開業した。館内は大胆でゴージャス、モダンでありながら機能的でエレガントな抑制美に魅了される。今回は約85㎡の広さを誇るスイート「Grand Premier Suites」を紹介したい。高級ウッドパネル、豪華な調度品など気品あるスイートで、勿論パトラーサービスも付く。ダイニングは充実しており、ロンドンのパブをイメージした「Holborn Dining Room」、スタイリッシュなラウンジダイニング「Mirror Room」。そして、店名が英

国の有名風刺画家 Gerald Scarfe に由来する「Scarfe Bar」などだ。スパ施設「SENSE A Rosewood Spa」にはセレブリティ御用達のヘアサロン「Matthew Curtis Hair Salon」が店を構え、高評価を得ている。

ローズウッド ロンドンの建物は市の重要建築物に指定され、パブリックスペースや回廊にも見どころが多い。キューバ産のマホガニー、7種類を多用した大理石、そしてルネサンス様式の7階まで続く縦大理石の壮麗なステアケースなど目を奪われる。細部から外観に至るまで、そのこだわりと完成度において他の追随を許さないローズウッドブランドの贅沢さを満喫したい。



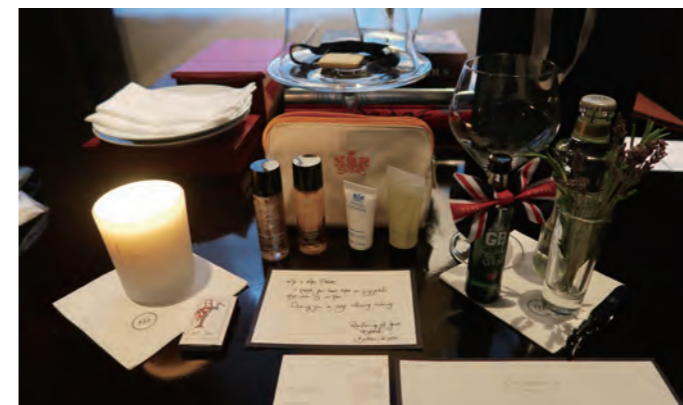
スイート「Grand Premier Suites」のベッドルーム。約85㎡の広さを誇り、高級ウッドパネル、豪華な調度品など気品ある部屋で、もちろんパトラーサービスも付く



ベッドルームからリビングルーム方向



天井高が際立つリビングルーム。一見シンプルな設えだが機能的でエレガントな抑制美に魅了される



心のこもったGMからのウェルカムアメニティー



完成度において他の追随を許さないゴージャスなバスルーム